

畠山 大二郎 (Daijiro HATAKEYAMA)

学位：博士（文学）

略歴：國學院大學大学院文学研究科博士課程前期日本文学専攻修了

國學院大學大学院文学研究科博士課程後期文学専攻修了

専門分野：平安文学、日本服飾史、有職故実

研究課題：平安文学における装束表現の研究

平安装束の形状と着方の研究

【著書】

- ・『新しく古文を読む ― 語と表象からのアプローチ』（共著、右文書院、2019 年 12 月）
- ・『平安朝の文学と装束』（単著、新典社、2016 年 3 月）
- ・『王朝文化を学ぶ人のために』（共著、世界思想社、2010 年 8 月）

【論文等】

- ・「小桂における時代性―色彩・かさね色目の表現を中心として―」（川村裕子編『平安朝の文学と文化 紫式部とその時代』、武蔵野書院、2024 年 4 月）
- ・「衣装表現を読むということ」（『日本文学研究ジャーナル』第 27 号、2023 年 10 月）
- ・『紫式部日記』における「三重」「五重」（河添房江・松本大編『源氏物語を読むための 25 章』、武蔵野書院、2023 年 9 月）
- ・「古典文学における「衣更え」とその様相」（針本正行編『平安女流文学論攷』、翰林書房、2023 年 3 月）
- ・『林田孝和著作集 第四巻 王朝文学の精神史研究』（編集・解説担当、武蔵野書院、2021 年 5 月）
- ・『紫式部日記絵巻』に描かれた装束の文字化―国語科教育という視点とともに―（『愛知文教大学教育研究』第 11 号、2021 年 3 月）
- ・『紫式部日記絵巻』に描かれた装束についての検証―装束描写の文字化と冬の冠直衣姿―（久保朝孝編『危機下の中古文学 2020』、武蔵野書院、2021 年 3 月）
- ・「源氏物語巻別古注釈集成第 35 帖若菜下十一」（『國學院大學栃木短期大学紀要』〔國學院大學栃木短期大学〕第 53 号、2019 年 3 月）
- ・「国宝『源氏物語絵巻』装束データベース」（『愛知文教大学論叢』第 21 巻、2018 年 11 月）
- ・「源氏物語巻別古注釈集成第 35 帖若菜下十」（『國學院大學栃木短期大学紀要』〔國學院大學栃木短期大学〕第 52 号、2018 年 3 月）
- ・高橋良久・畠山大二郎「ICT を活用した絵巻物による古文指導法―古文に親しませるために―」（『愛知文教大学教育研究』第 8 号、2018 年 2 月）
- ・「古文解釈法―装束を読むという視点から―」（『愛知文教大学教育研究』第 7 号、2017 年 3 月）

【学会等口頭発表】

- ・「夏・秋のかさね色目」（愛知「翠曜塾」教養講座「源氏物語を彩る配色の美」第三回、愛知芸術文化センター、2024年3月）
- ・「春のかさね色目」（愛知「翠曜塾」教養講座「源氏物語を彩る配色の美」第二回、愛知芸術文化センター、2024年3月）
- ・「源氏物語について」（「平安時代へようこそ～紫式部の生きた世界～」第三回、朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2024年3月）
- ・「再現！源氏物語の装束」（愛知文教大学連携市民講座、小牧市創垂館、2024年3月）
- ・『源氏物語』の装束で体感する平安の雅—装束でひもとく『源氏物語』—（ハルメク講座、ホテル雅叙園東京、2024年3月）
- ・「祝・通年・冬のかさね色目」（愛知「翠曜塾」教養講座「源氏物語を彩る配色の美」第一回、愛知芸術文化センター、2024年3月）
- ・「絵で読む源氏物語の世界」（愛知文教大学特別講座、愛知芸術文化センター、2024年2月）
- ・「千年前のファッションが今に伝わるその理由」（令和5年度東部ゆうゆう学級、小牧市東部市民センター、2024年2月）
- ・「信長と南蛮の服飾」（小牧市令和5年度「信長学～南蛮かぶれの信長～」第二回、まなび創造館あさひホール2024年2月）
- ・「紫式部について」（「平安時代へようこそ～紫式部の生きた世界～」第二回、朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2024年2月）
- ・「平安時代の王朝文化」（「平安時代へようこそ～紫式部の生きた世界～」第一回、朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2024年1月）
- ・「源氏物語の装束」（北名古屋市生涯学習講座「触れて見て知る源氏物語～みやびな平安時代の世界～」第二回、名古屋芸術大学アーツスクエア、2023年12月）
- ・「平安貴族の生活」（北名古屋市生涯学習講座「触れて見て知る源氏物語～みやびな平安時代の世界～」第一回、名古屋芸術大学アーツスクエア、2023年12月）
- ・「教科書の中の平安文化を捉え直す—古文・絵巻・装束—」（2023年度学び合う学び研究所セミナー第九回、愛知文教大学、2023年12月）
- ・「華麗なる平安装束の世界—その復元と変遷—」（同志社女子大学今出川キャンパス楽真館ラーニング・コモンズ、2023年12月）
- ・「名古屋友禅について」（令和5年度小牧市味岡市民センターゆうゆう学級、小牧市味岡市民センター、2023年11月）
- ・『源氏物語』の装束」（朝日カルチャーセンター、横浜教室、2023年10月）
- ・「着る・触れる・学ぶ 日本古代の衣装 ～書物と復元から～」（愛知県立大学公開講座、愛知県立大学、2023年10月）

- ・「源氏物語の色合い」（愛知「翠曜塾」教養講座、愛知芸術文化センター、2023年9月）
- ・「家康の衣服が語るもの」、NHK文化センター、さいたまアリーナ教室、2023年9月）
- ・「夏の装束と『源氏物語』」（平安文学リレー講座第2回、大阪府立中之島図書館、2023年8月）
- ・「源氏物語―〈夕顔〉―」（愛知文教大学サテライトカレッジ クラシック音楽講座、愛知芸術文化センター、2023年8月）
- ・「装束に触れる―平安装束の着装」（令和5年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」3、岩倉市生涯学習センター、2023年7月）
- ・「平安貴族の必需品、「扇（おうぎ）」」（令和5年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」2、岩倉市生涯学習センター、2023年6月）
- ・「平安時代の服装概説」（令和5年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」1、岩倉市生涯学習センター、2023年6月）
- ・「平安から続く装束 十二単と束帯」、ホテルオークラ、2023年2月）
- ・「織田信長のファッション―肖像画に描かれた服装を読む―」（2022年度サテライト講座信長学、オンライン開催、2022年11月）
- ・「尾張名古屋の衣文化」（愛知文教大学連携市民講座、小牧市公民館講堂、2022年11月）
- ・「源氏物語の男性装束」（愛知文教大学公開講座、愛知県芸術文化センター中リハーサル室、2022年9月）
- ・「衣装の意匠～文学を中心に～」(KICCA着こなし研究会2022 一般社団法人きものカラーコーディネーター協会、オンライン開催、2022年7月）
- ・東京キモノショー2022 オフィシャルサポーターおよび展示着装・解説執筆・資料貸出（東京都中央区日本橋人形町問屋街界限、2022年5月）
- ・「「鎌倉殿」のファッション・モード～公家化する武家、武家化する公家～」(NHKカルチャーさいたま教室、2022年3月）
- ・「着て見て知る源氏物語～姫君の装束～」(東海高等学校 土曜市民公開講座 サタデープログラム、2022年2月）
- ・「平安時代の装束～「狩衣」と「桂」の着装～」(横浜女学院中学校高等学校、2022年2月）
- ・「元号と古典文学」（東部ゆうゆう学級講座、小牧市東部市民センター、2022年2月）
- ・「織田信長のファッション―肖像画に描かれた服装を読む―」2021年度サテライト講座信長学、2021年10月）
- ・「西と東の恋物語―西洋と日本の恋のうた―」（2021年度サテライトカレッジ秋講座クラシック音楽講座、愛知芸術文化センター、2021年10月）
- ・「平安貴族のファッション」（東部ゆうゆう学級講座、小牧市東部市民センター、2021年8月）
- ・「紫の上の装束―「若紫」巻を中心に―」（國學院大學オンライン公開講座、2021年7月）
- ・「コロモガエのナゾ」（着こなし研究2021 一般社団法人きものカラーコーディネーター協会、オンライン開催、2021年5月）

- ・「武将も愛読していた『源氏物語』」（愛知文教大学連携市民講座、小牧市公民館講堂、2020年11月）
- ・「宮中祭祀と装束」（東部ゆうゆう学級講座、小牧市東部市民センター、2020年9月）
- ・「源氏物語を“着る”～明石の君～」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2020年3月)
- ・「源氏物語を“着る”～玉鬘～」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2020年2月)
- ・「源氏物語を“着る”～光源氏の直衣姿～」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2019年11月)
- ・「平安の装束 謎の装束「細長（ほそなが）」」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2019年11月)
- ・「装束から“見る”即位の礼」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2019年10月)
- ・「今こそ知りたい即位の礼」(こまき市民文化財団大学連携市民講座、小牧市公民館、2019年9月)
- ・「即位礼、装束の美」(NHK 文化センター、さいたまアリーナ教室、2019年9月)
- ・「装束からみる即位の礼」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2019年9月)
- ・「絵で読む源氏物語」(北里ゆうゆう・つつじ合同学級、小牧市北里市民センター、2019年8月)
- ・「平安の装束 「宿木」 巻の男性装束」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2019年6月)
- ・「源氏物語を着る③狩衣・桂の着装」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2019年6月)
- ・「源氏物語を着る②即位礼について」(朝日カルチャーセンター、名古屋教室、2019年5月)
- ・「源氏物語と装束の着付け（束帯・十二単）」(東京キモノショー2019、日本橋三井ホール、2019年5月)
- ・「『源氏物語』を着る―桂姿の女君―」(NHK 文化センター、さいたまアリーナ教室、2019年3月)
- ・「源氏物語の装束―光源氏の直衣・紫の上の桂―」(NHK 文化センター、青山教室、2019年3月)
- ・「日本の伝統衣装（装束・着物）」(ベトナム、VAN LANG 大学、VAN HIEN 大学、2019年3月)
- ・「平安の装束『源氏物語』の世界「狩衣」と「桂」の解説・着装」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2019年2月)
- ・「見て触れて知る『源氏物語』―「女君の扇」と装束体験―②「狩衣・桂装束体験」(こまき市民文化財団大学連携講座、小牧市公民館、2018年12月)
- ・「見て触れて知る『源氏物語』―「女君の扇」と装束体験―①「女君の持つ扇―扇の本当の意味―」(こまき市民文化財団大学連携講座、小牧市公民館、2018年11月)
- ・「平安の女性装束～女性の正装・裳唐衣～」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2018年11月)
- ・「直衣姿の頭中将」(國學院大學オープンカレッジ「週末の『源氏物語』講座（夕顔篇 3）」、國學院大學渋谷キャンパス、2018年9月)
- ・「平安の男性装束―光源氏の夏の直衣姿―」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2018年9月)
- ・「浮舟の装束―生地という観点から―」(写本で読む源氏物語、川崎市総合自治会館、2018年8月)
- ・「平安の男性装束―光源氏の直衣（のうし）姿―」(朝日カルチャーセンター、横浜教室、2018年3月)
- ・「大奥の衣装」(NHK 文化センター、さいたまアリーナ教室、2018年3月)
- ・「源氏物語絵巻の方法―物語を象〈カタド〉るということ―」(芸術を巡る物語、アート倶楽部カルチェ・ラタン（愛知県名古屋市）、2018年1月)
- ・「国宝『源氏物語絵巻』における装束」(國學院大學國文學會一月例会、國學院大學渋谷キャンパス、

2018 年 1 月)

- ・『源氏物語』の装束—平安時代の女性衣服— (フェリス女学院大学オープンカレッジ文化講演会、フェリス女学院大学緑園都市キャンパス、2017 年 9 月)
- ・「平安の女性装束—桂姿の女君—」 (朝日カルチャーセンター、横浜教室、2017 年 9 月)
- ・「光源氏を着る～源氏物語の夏の装束～」 (NHK カルチャー、さいたまアリーナ教室、2017 年 8 月)
- ・『源氏物語』の衣装～中の君の細長姿～ (写本で読む源氏物語講座 10 周年記念講演、川崎市総合自治会館、2017 年 8 月)
- ・「キモノの中の洋服」 (愛知文教大学公開講座、愛知文教大学、2017 年 5 月)
- ・「平安貴族の年中行事」 (朝日カルチャーセンター、横浜教室、2017 年 3 月)

【その他】

- ・服飾美学会 監事
- ・全国大学国語国文学会 委員
- ・中古文学会 委員
- ・國學院大學國文學會 委員
- ・特定非営利活動法人〈源氏物語電子資料館〉 副代表理事

【研究資金獲得状況】

- ・2017-2019 年度科学研究費助成事業若手研究 (B)
「平安・鎌倉時代の絵巻物における宮廷装束の基礎的研究」 (課題番号 17K18225、研究代表者)
- ・2020-2022 年度科学研究費助成事業若手研究
「装束抄を用いた宮廷装束およびかさね色目の基礎的研究」 (課題番号 20K12870、研究代表者)

令和 6（2024）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	畠山大二郎	職位／役職	准教授
-----	-------	-------	-----

1. 教育の理念

愛知文教大学は、「広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、もって『質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成』という建学の精神を実現することを使命」としている。中でも、「日本文化分野」の科目においては、座学だけでなく日本文化を実際に体験する科目も開設し、実践的な学びをも通して文化的コミュニケーションの基礎となる日本についての理解を培うものとしている。

私は、人文学部人文学科の中にあって、日本古典文学を中心とした日本文化の授業を担当している。日本という風土の中で、時代を越えて残されてきた文学や文化に触れることは、文化とは何か、ということ直に考えることに繋がる。また、文学という文字資料を中心とはしているが、絵画や服飾品などの実物資料にも触れさせることで、より実感させることを重視している。そうした自分の経験や体験、体感による知識や学修が、世界に通用する人間として必要なのではないかと考えている。グローバル社会においては、日本人学生、留学生を問わず、教養が重要視されるものと考えており、幅広くかつ複眼的な思考を体得してもらいたいと考えている。

さらに、長年「装束」に関わってきた経験から、日本宮廷文化の一要素である「装束」に関わる技術を次世代へ継承し、現代にあっても伝統的な技術を有する人材の養成に貢献できればと考え、同時に研究を少しでも進める努力を惜しまないつもりである。

2. 教育活動の内容

○担当授業科目名（2023 年度）

- ・文章表現法 A（スタディスキル）
- ・文章表現法 B
- ・ことばと人文学
- ・信長学
- ・ことばと文化—日本と世界—
- ・アカデミアゼミ A
- ・アカデミアゼミ B
- ・アカデミアゼミ C
- ・アカデミアゼミ D
- ・日本文学演習 A
- ・日本文学演習 B
- ・くずし字を読む
- ・和歌文学を読む
- ・女流日記を読む
- ・美術のなかの日本文化（一般）
- ・美術のなかの日本文化（国際）
- ・文学のなかの日本文化（国際）

- ・日本文学研究（大学院）

○担当授業科目名（2024 年度）

- ・文章表現法 A（スタディスキル）
- ・文章表現法 B
- ・ことばと人文学
- ・信長学
- ・ことばと文化—日本と世界—
- ・アカデミアゼミ A
- ・アカデミアゼミ B
- ・アカデミアゼミ C
- ・アカデミアゼミ D
- ・日本文学演習 A
- ・日本文学演習 B
- ・くずし字を読む
- ・和歌文学を読む
- ・女流日記を読む
- ・美術のなかの日本文化（一般）
- ・美術のなかの日本文化（国際）
- ・文学のなかの日本文化（国際）
- ・日本文学研究（大学院）

○部活動顧問

- ・日本文化部顧問

○学生指導

- ・学生委員会委員
- ・部活動担当
- ・学生自治会担当
- ・学内行事「浴衣 DAY」（2022 年 7 月 7 日、2023 年 7 月 6 日、2024 年 7 月 4 日）

○公開講座等

- ・東部ゆうゆう学級講座「元号と古典文学」（2022 年 2 月 2 日、於・小牧市東部市民センター）
- ・愛知文教大学公開講座「見て知る源氏物語—姫君の装束—」（2022 年 2 月 8 日、於・愛知芸術文化センター）
- ・教員講習会「平安時代の装束～「狩衣」と「桂」の着装～」(2022 年 2 月 18 日、於・横浜女学院中学校高等学校)
- ・東海高等学校 土曜市民公開講座 サタデープログラム「着て見て知る源氏物語～姫君の装束～」、（2022 年 2 月 26 日、於・東海高等学校）

- ・NHK 文化カルチャー講座「鎌倉殿」のファッション・モード～公家化する武家、武家化する公家～
(2022 年 3 月 26 日、於・NHKカルチャーさいたま教室)
- ・同志社女子大学、卒業研究(大津ゼミ)・古典文学基礎演習「間近で見て知る『源氏物語』の装束」(2022 年 7 月 1 日、於・同志社女子大学)
- ・2022 年度「KICCA 着こなし研究会」「衣装の意匠～文学を中心に～」(2022 年 7 月 16 日、オンライン開催)
- ・愛知文教大学公開講座「源氏物語の男性装束」(2022 年 9 月 12 日、於・愛知芸術文化センター)
- ・令和四年度愛知文教大学連携市民講座「色華やか！江戸時代の尾張名古屋文化を知る」シリーズ 1「尾張名古屋の衣文化」(2022 年 11 月 5 日、於・小牧市公民館)
- ・文化講座「平安から続く装束 十二単と束帯」(2023 年 2 月 25 日、於・ホテルオークラ)
- ・令和 5 年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」1「平安時代の服装概説」(2023 年 6 月 12 日、於・岩倉市生涯学習センター)
- ・令和 5 年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」2「平安貴族の必需品、「扇(おうぎ)」」、
(2023 年 6 月 26 日、於・岩倉市生涯学習センター)
- ・令和 5 年度前期岩倉市生涯学習講座「源氏物語のよそおい」3「装束に触れるー平安装束の着装」(2023 年 7 月 10 日、於・岩倉市生涯学習センター)
- ・愛知文教大学サテライトカレッジ クラシック音楽講座「源氏物語ー〈夕顔〉ー」(2023 年 8 月 14 日、
於・愛知芸術文化センター)
- ・平安文学リレー講座第 2 回「夏の装束と『源氏物語』」(2023 年 8 月 26 日、於・大阪府立中之島図書館)
- ・愛知県立大学公開講座「着る・触れる・学ぶ 日本古代の衣装 ～書物と復元から～」(2023 年 10 月 14 日、於・愛知県立大学)
- ・令和 5 年度小牧市味岡市民センターゆうゆう学級「名古屋友禅について」(2023 年 11 月 23 日、於・
小牧市味岡市民センター)
- ・「華麗なる平安装束の世界ーその復元と変遷ー」(2023 年 12 月 8 日、於・同志社女子大学今出川キャンパス楽真館ラーニング・コモンズ)
- ・2023 年度学び合う学び研究所セミナー第九回「教科書の中の平安文化を捉え直すー古文・絵巻・装束ー」(2023 年 12 月 9 日、於・愛知文教大学)
- ・北名古屋市生涯学習講座「触れて見て知る源氏物語～みやびな平安時代の世界～」第一回「平安貴族の生活」(2023 年 12 月 26 日、於・名古屋芸術大学アーツスクエア)
- ・北名古屋市生涯学習講座「触れて見て知る源氏物語～みやびな平安時代の世界～」第二回「源氏物語の装束」(2023 年 12 月 26 日、於・名古屋芸術大学アーツスクエア)
- ・小牧市令和 5 年度「信長学～南蛮かぶれの信長～」第二回「信長と南蛮の服飾」(2024 年 2 月 10 日、
於・まなび創造館あさひホール)
- ・令和 5 年度東部ゆうゆう学級「千年前のファッションが今に伝わるその理由」(2024 年 2 月 21 日、
於・小牧市東部市民センター)
- ・愛知文教大学特別講座「絵で読む源氏物語の世界」(2024 年 2 月 27 日、於・愛知芸術文化センター)
- ・愛知文教大学連携市民講座「再現！源氏物語の装束」(2024 年 3 月 10 日、於・小牧市創垂館)

○高大連携出張授業

- ・小牧高等学校出張授業「くずし字」を読んでみよう（2022年11月9日）
- ・瀬戸北総合高等学校出張授業「装束について」（2022年11月14日）
- ・愛知啓成高校オープンキャンパス「平安装束に触れてみよう」（2023年3月8日）

3. 教育の方法

私は、平安朝文学における装束表現を研究テーマとしてきた。単に文学を読むだけではなく、実物資料や視覚資料を扱うことにより、複合的かつ立体的な研究となるよう努めてきた。文学の精読や用例収集だけではなく、絵画資料や遺品といった文化資料も研究対象として積極的に取り入れ、諸外国や近世にまで視野を拡げ、考察を重ねてきた。時代や分野を越えた総合的かつ広角的な視点が有益だと考えている。さらには、装束復元や着装、裁縫、染色も実践的に試みてきた。この研究方法は、本学の教育の場においても実践をしてきた。「和歌文学を読む」「女流日記を読む」「美術のなかの日本文化」「文学のなかの日本文化」などでは、文字資料の他に、写本や卷子本、服飾品、工芸品に触れさせる機会を設けている。

また、古典教育という点においても、古典文学を化石化した過去として捉えるのではなく、現代にありありと甦らせることが必要だと私は考えている。古典教育についての不要論が活発に議論される昨今、文化的な視点から古典教育について考える意義も大きいだろう。有形資料と文献を往還し比較し結び付ける視点が、文学文化理解の中で大いに役立つものと信じている。部活動「日本文化部」や授業の一部で、装束の扱いと着付け技術（衣紋道）を学生に指導し、『源氏物語』の一場面を再現した際には、装束表現の意味を皆で納得できた、という経験を得られた。古典を実践してみる、ということを実感した瞬間でもあった。

こうした経験から、これまでの研究方法や研究成果をつねに再検証しつつ、あらたな研究対象への挑戦を学生とともに行う予定でいる。「アカデミアゼミ」において、古典文学を文化的な側面からも読み解くという形で指導を行っている。文学、文化に対する知識や、言葉を理解する読解力、資料を取り扱う処理能力、論理的思考の構築、礼節などを重点的に指導してきた。また、学生の自主的、自律的考察を促すため、学生に人前で発表する機会を設けるよう心がけている。ゼミ生同士での口頭発表と質疑応答が大きな教育効果をもたらすことをみてきた。ゼミ生には、教職志望の学生も多く、国語科教育という視点から補習を適宜行い、各自に合わせた指導をしてきた。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

2022年度の授業調査アンケートでは、どの授業でも概ね平均値か平均以上の評価を得ることができた。特に、「古典文学を自由な発想で読ませてくれたのがありがたかったです。古典文学をより興味深く読むことができました。」「授業内容がとても面白かったです。」「どの授業もとても興味を持てる内容でした。」といった回答からは、授業方法の工夫が生きた結果であると思われる。「装束の授業がとても楽しかったし、先生にしかできない授業だなと思いました。もう一度履修したいくらい楽しい授業でした。」という回答が得られたのは、これまでの研究・教育に対する努力が報われたように思う。今後も努力を続けていきたい。否定的な感想はなかったが、努力を怠らないよう気を引き締めていきたい。

教育状況を確認するため、FD研修会に参加し、日本文化分野内の教員同士で連絡を密に行うことを心がけている。他教員の教育方法を知る機会として、公開授業も自己の授業方法を振り返るよい機会と

なっている。

5. 今後の目標

古典文学や日本文化に関心のない学生であっても、興味を持てるような授業を展開し、社会の中で学修したことを生かされるような学生を育てていきたい。どのような状況であっても、自己が体得した知識や学修は、大きな武器となる。変動の大きくなる世界の中で、柔軟な思考を身に付けてほしいと考えている。

そうした教育を実現するためには、自己の研究を充実させることも重要である。研究を教育という形で還元できるよう、授業方法・研究方法の開発検討と充実を模索していきたい。